

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	子ども家庭局子ども家庭部 こども施設企画課
評価対象期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	北九州市立第1緑地保育センター（おひさまのいえ） 北九州市立第2緑地保育センター（もりのいえ）	施設類型	目的・機能
	所在地	北九州市若松区大字竹並町925番地の1 北九州市小倉南区長野530番地の3		
	設置目的	豊かな自然環境の中で、児童に健全な遊びを与えて保育し、その心身の健全な発達を図ることを目的とする。		
利用料金制		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
		インセンティブ制 有・無	ペナルティ制 有・無	
指定管理者	名称	社会福祉法人 北九州市福祉事業団		
	所在地	北九州市八幡東区中央二丁目1番1号		
指定管理業務の内容		【第1・第2共通】 ・施設の運営と管理 ・宿泊保育事業 ・日帰り保育事業 ・親子宿泊事業 ・子育てグループサポート事業 ・出前講演事業 ・ファミリーレクリエーション事業 【第2のみ】 ・ホタル育成事業		
指定期間		平成31年4月1日～令和7年3月31日（※1年延長）		

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	
1	施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み （１）施設の設置目的の達成 ① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。 ② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 ③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。 ④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。 〔所 見〕 ■両施設共通 ・ 5年ぶりに宿泊保育を再開することに伴い、全利用対象施設（保育所や幼稚園等）に、宿泊保育や日帰り保育の案内を事前郵送等周知徹底し、利用者数増に努めた。 ・ ホームページの更新は月1回以上行い、施設への関心を増やすため、施設周辺の自然等を掲載する等、情報発信を積極的に行った。 ・ 施設利用後は、利用団体から届いた児童作成の作品を館内に掲示し、礼状の送付や宿泊利用団体の卒園児宛に卒園祝いの言葉を送るなど、関わりを持った児童との交流を大切にすることで、保育の一端を担う取組みを行っている。 ・ 保育所・幼稚園の先生を対象として、自然や野外活動への知識や理解を深め、子どもたちへの保育に役立ててもらおう目的で「野外保育研修会」を両施設合同で実施した。 ■第1緑地保育センター ・ YouTubeやInstagram等のSNSを活用し積極的に広報を行ったことにより、フォロワー数が微増した。 ・ 親子宿泊の申込みにGoogleフォームを活用したことにより、毎回定員に達する応募があった。 ・ これまで施設で開催していた次年度の抽選会をZoomで開催した。天候の影響を受けず開催できること、抽選会を失念していた園には連絡を入れて参加することができる等抽選会の改善を図った。 ■第2緑地保育センター ・ 「ほたる育成事業」において、継続して施設裏の小川の環境整備に取り組んだ結果ほたるの飛翔が確認できるようになった。

《第 1 緑地保育センター》

実施項目	数値目標	事業実施回数	R6実績	目標達成率	R5実績	対 R5実績
宿泊保育	2,400人	76団体	2,514人	104.7 %	0人	-
日帰り保育	4,000人	43団体	5,133人	128.3 %	3,478人	147.5%
親子宿泊	78人	3回	85人	108.9 %	0人	-
子育てグループ支援	130人	9回	96人	73.8 %	95人	101.0%
ファミリーレクリエーション	200人	2回	165人	82.5 %	111人	148.6%
出前講演	4,300人	42回	3,306人	76.8 %	0人	-
年間稼働率	-	93.6%			63.5%	

※ ・・・評価対象年度（以下、同じ）

《第 2 緑地保育センター》

実施項目	数値目標	事業実施回数	R6実績	目標達成率	R5実績	対 R5実績
宿泊保育	3,400人	112団体	3,726人	109.5 %	0人	-
日帰り保育	4,000人	38団体	2,746人	68.6 %	6,314人	43.4%
親子宿泊	114人	3回	109人	95.6 %	0人	-
子育てグループ支援	310人	4回	245人	79.0 %	222人	110.3%
ファミリーレクリエーション	175人	2回	442人	252.5 %	71人	622.5%
出前講演	450人	12回	1,078人	239.5 %	0人	-
年間稼働率	-	87.88%			84.1%	

（２）利用者の満足度

- ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

〔所 見〕

- ・ 利用団体の代表者や保護者を対象に毎年実施しているアンケートでは、両施設ともに「施設の充実度」「サービスの充実度」「プログラムの充実度やPR度」のほぼすべてにおいて「非常に満足」「満足」であった。
- ・ 総合評価においても、両施設ともに「非常に満足」「満足」と回答した割合が96.1%以上となっており、利用者の満足度は非常に高い。
- ・ アンケート中の自由記入欄に記載された内容については、原則として、その都度、回答や説明を行っている。

- ・ 職員会議では、利用団体との打ち合わせ内容について職員間の認識のずれが生じないように情報共有し、利用者アンケートの意見を基にプログラム内容や指導方法、施設内外の環境改善を検討し、見直しや改善を行うことでサービス向上に努めた。
- ・ 出前講演（「クリスマス」「節分」等）は、大変好評であり、職員にとっても園での子どもたちや先生方の様子や関わりに触れることができる自己研鑽の場になっている。

《アンケート集計結果》

年度	施設区分	施設	サービス	プログラム・PR	総合評価	回答数
R5年度	第1緑地	100%	99.8%	100%	100%	82
	第2緑地	100%	100%	100%	100%	145
R6年度	第1緑地	96.8%	99.6%	99.7%	96.1%	129
	第2緑地	99.8%	99.5%	99.2%	98.2%	166

2 効率性の向上等に関する取組み

（１）経費の低減等

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取り組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

〔所 見〕

- ・ 施設の維持管理の係る再委託業務については、法人が管理する施設と一括して競争入札に付すことで経費削減に努めている。
- ・ 館内一部の清掃を職員が行ったり、段階的に各部屋の照明をLED照明へ取替えを行ったりするなど、経費削減に努めている。
- ・ 事務室暖房は、ガスファンヒーターを使用し、灯油の使用料を削減している。
- ・ 利用者に向け、節電・節水の協力を呼びかける掲示を行っている。

＜経費＞

総事業費	R5年度	R6年度
予算	86,790 千円	86,911 千円
人件費	58,276 千円	56,236 千円
光熱水費	3,489 千円	4,549 千円
事業費等	25,025 千円	26,126 千円
決算	86,826 千円	86,911 千円
人件費	56,134 千円	56,230 千円
光熱水費	3,488 千円	4,549 千円
事業費等	27,204 千円	26,132 千円

(2) 収入の増加
① 収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。
[所 見]
※ 本施設は利用料金制を取っていないため、該当なし。
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取り組み
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。
② 職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。
[所 見]
■両施設共通
・ 毎年、事業計画に基づき、適正な人員配置及び運営を実施している。 ・ 両施設の指導力、技術力向上を図るため、毎年、交流指導研修を実施している。また年2回、両施設の連携を図るための合同会議を実施した。 ・ 職員の資質向上のため、「福祉事業団職員研修」「人権研修」「野外活動研修」等、リモート参加を含め受講した。さらに、職場内伝達研修により、指導力及び研修効果のアップに繋げている。
■第1緑地保育センター
・ 平成27年から、「市立教育センター」の依頼で、「玄海青年の家」の職員と協働して、新規に採用された幼稚園教諭の野外活動体験研修の講師を務めている。
■第2緑地保育センター
・ 施設が位置する長野緑地公園内の清掃活動や防犯活動に取り組み、必要に応じて警察や小倉南区まちづくり整備課や地域との連携を図っている。 ・ 全国野外保育センター連絡協議会参加の施設と連絡を取り合い、情報交換をすることで運営に役立てている。
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など
① 施設の利用者の個人情報保護するための対策が適切に実施されているか。
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。
④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。
⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

【所 見】

- ・ 利用者の個人情報については、「北九州市福祉事業団個人情報保護規程」に基づき、必要最小限の内容の把握に努め、個人情報データはパスワードで管理、個人情報を含む書類は施錠できる書棚で保管し、不要になった個人情報は速やかにデータ消去及びシュレッダー処分を行うなど、適正に管理している。
- ・ 宿泊保育の利用については、抽選により利用日を決定し、ファミリーレクリエーションや親子宿泊についても、市政だよりやホームページで公募したうえで、応募者多数の場合は抽選により利用者を決定している。それ以降の申し込みについても先着順にするなど、公平を期している。
- ・ 安全対策では、「緑地保育センター危機管理・安全対策マニュアル」及び「緑地保育センター安全管理点検項目」に基づき、危険箇所の有無について点検し、利用前の打合せ時や当日の確認を徹底している。
また、幼児にも分かりやすいようイラストによる危険箇所を表示し、利用団体から代表の管理者（「まもるんじゃー」というキャラクター）を選出し、安全管理等の意識を高める取組みを行っている。
- ・ 不測の事態に備え、適切な行動が取れるように、各種避難訓練（火災、地震、不審者・野生動物侵入時等）を適宜実施している。
- ・ 設備面については、防犯カメラや防犯灯、不審者対策の防護器具などを設置している。また、施設内に設置してあるAEDを使用し、職員に対し救命講習を行っている。
- ・ 「北九州市福祉事業団施設事務局緊急連絡網」を整備し、電話、ファックス、電子メール等により迅速かつ正確に情報を伝達できる体制を確立している。
- ・ 災害時には、「北九州市福祉事業団災害対策要綱」により、災害対策本部の設置や人員動員体制の整備を行い、施設利用者の生命・身体・財産を保護する他、施設・建物・設備等を防護するための体制を確立している。

【総合評価】

【所 見】

- ・ コロナ以前と比べ、宿泊保育での合同利用が少なくなり、宿泊日が分散したことにより、その他事業への影響も考えられるが、利用団体の意見・要望の把握に積極的に取り組む姿勢を評価した。
- ・ また、利用団体の児童との継続した交流を大切にすることで、保育の一端を担い、さらには次年度の利用に繋げる切れ目ない取組みについても評価した。
- ・ 利用団体のアンケート内容を参考に、事前協議を実施するとともに、当日も随時打ち合わせを行うことで利用者のニーズに応え、サービス向上に努めている。
- ・ これまで利用日の日程調整については、一同に会して抽選会を実施していたが、Z o o mで実施するなど柔軟に対応している。
- ・ 両施設とも地域や近隣施設と連携することで施設の魅力向上を図っている。
- ・ 施設の管理や安全対策、危機管理については、それぞれの目的に応じたマニュアル等を整備しており、適切と判断できる。